

題名	著者	感想	評価
見知らぬ扉 (日本文庫)	森真沙子	マンションに住んでいる人たちが次々に語るブラックなお話。こんなオチならなんでも書けちゃうじゃんっ！	☆☆
黒い看護婦 福岡四人組 保険金殺人事件 (新潮文庫)	森功	桐野夏生の「OUT」のようだと騒がれた主婦4人が起した現実の殺人事件。圧倒的な力を持つ一人に動かされていたのだが、女同士で妊娠したということまで信じるほどに主犯の女にカリスマ性があったとは思えない。	☆☆
銃と チョコレート (講談社)	乙一	大好き乙一の単行本。泥棒の名前はゴディバ、探偵はロイズ。凝った装丁の本は残念ながら児童書。子供時代にこういう本があったらもっと早くに本好きになっていたと思う。でも私は大人だから、大人向けの白乙一が読みたいの！（ちなみに黒乙一は『GOTH』みたいなの） 麻生とゴディバ前で待ち合わせするときに、つい「ゴディバ男爵で」と言ってしまう私はラーメンズファンです。	☆☆ ☆☆
闇の底 (講談社)	薬丸岳	少女を標的にした性犯罪が起こる度に、その報復として性犯罪の前歴を持つ男たちが殺されていく劇場型の連続殺人事件。未成年犯罪を扱った前作の『天使のナイフ』の方が面白かった。	☆☆ ☆☆
硝子のハンマー (角川文庫)	貴志祐介	寡作な人で、デビュー11年で6冊目。前作『青の炎』から4年半。こんなにまどろっこしい作品を書く人だっけ？	☆☆

広告批評（07年12月号）脳科学流ラーメンズ進化論

茂木健一郎×ラーメンズ

ラーメンズに一人入った関係になると、片桐仁が無口になる。

爆笑問題のNHK『ニッポンの教養』も教授との対談で、常に太田光と教授が話しているも田中祐二は同じ空気に存在しているし、太田光は田中祐二のことを振り向くが、この対談のときの片桐仁は結構二人の話に無関心で、小林賢太郎もそんな片桐仁を気にかけることをせず茂木健一郎との話に集中している感じがする。それは置いてきぼりにしているって意味じゃなく、それが限らない信頼関係を持つラーメンズの役割分担なんだと思う。これが昔の芸人仲間の輪だったら小林賢太郎は引っ込み、片桐仁の独壇場になっているはず。

いろんな舞台やドラマに役者として出演したりして交際範囲も広い片桐仁に比べ、好きな人と好きなことしかやらず人見知りの印象の小林賢太郎は、ひたすらラーメンズとして頑張っている気がする。

ラーメンズを作っているのは小林賢太郎で、ラーメンズに欠かせない役者は片桐仁なんだとつくづく思った次第。

と力を入れたけど、実は対談もまだパラパラと眼を通した程度だし、ファン歴浅いから勝手な思い込みなのかもしれない。でもこれだけは言える。私は小林賢太郎が好きです！え？もおご存知でした？

